

秋葉区(新津地域)における景況調査の結果概要(2025年4月～6月期)

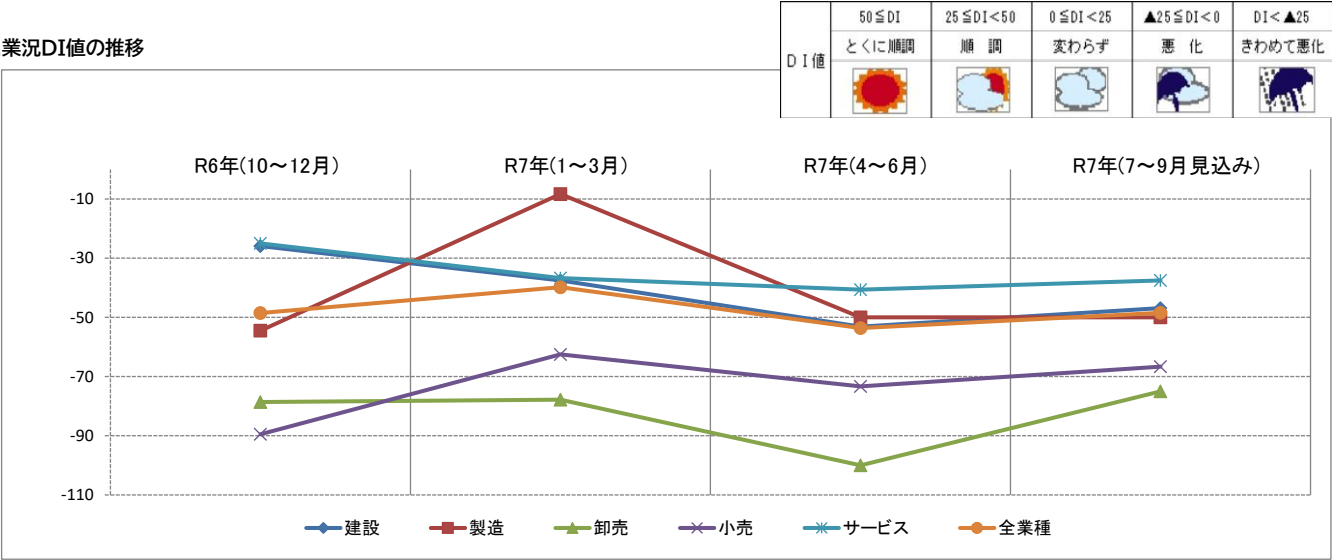
- 1.調査対象 100事業所(有効回答数97社、回答率97%)
- 2.対象期間 2025年4～6月期実績 及び 2025年7～9月期の見通し
- 3.調査結果の概要

今回の調査における全業種の業況DI値は、前期(2025年1月～3月期)の「-39.8」から今期(2025年4月～6月期)には「-53.6」へとマイナス幅が拡大。景気全体としては依然として厳しい水準にある。一方、サービス業は今期実績において唯一、売上高DI値が「+6.3」を記録。相対的に回復傾向が見られる業種も存在する。全業種を通じたその他のDI値では、従業員数DIのみが「5.2」とプラスを維持し、雇用面では増加傾向がうかがえる。経営課題としては、「需要の停滞」(49件)と「仕入単価の上昇」(44件)が全業種共通の大きな問題として引き続き挙げられており、物価高と需要低迷の“ダブルパンチ”が地域経済に重くのしかかる状況が続いている。価格高騰による企業活動への影響については、76%の事業所が「影響は継続している」と回答しており、影響の持続性と深刻さが浮き彫りとなった。そのほか、「人件費の増加・圧迫」(32件)、「原材料費・人件費以外の経費増加」(29件)、「金利負担の増加」(28件)といった項目も、企業経営における主要な課題として挙がっている。

4.業種別項目別のDI値※()は見通し

	建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業	全業種
売上高	△ 46.9 (△ 37.5)	△ 21.4 (△ 21.4)	△ 25.0 (△ 75.0)	△ 46.7 (△ 46.7)	6.3 (△ 12.5)	△ 24.7 (△ 29.9)
仕入単価	△ 65.6 (△ 56.3)	△ 78.6 (△ 64.3)	△ 75.0 (△ 50.0)	△ 66.7 (△ 53.3)	△ 43.8 (△ 43.8)	△ 60.8 (△ 52.6)
採 算	△ 56.3 (△ 50.0)	△ 21.4 (△ 7.1)	△ 25.0 (△ 50.0)	△ 60.0 (△ 66.7)	△ 12.5 (△ 37.5)	△ 36.1 (△ 42.3)
資金繰り	△ 40.6 (△ 31.3)	△ 21.4 (△ 21.4)	△ 25.0 (△ 50.0)	△ 33.3 (△ 40.0)	△ 12.5 (△ 15.6)	△ 26.8 (△ 26.8)
従業員数	△ 6.3 (△ 3.1)	7.1 (35.7)	0.0 (25.0)	6.7 (0.0)	15.6 (0.0)	5.2 (5.2)
業 況	△ 53.1 (△ 46.9)	△ 50.0 (△ 50.0)	△ 100.0 (△ 75.0)	△ 73.3 (△ 66.7)	△ 40.6 (△ 37.5)	△ 53.6 (△ 48.5)

5.業況DI値の推移



6. 価格高騰による企業活動への影響について

影響は継続している	影響は出たが、既に収束した	今後影響が出る可能性がある	影響なし
76%	0%	20%	4%